


うみやまかわ新聞

日本財団海洋教育促進プロジェクト
海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作事業

中間報告書

2014.10.25

 離島経済新聞社

【企画趣旨】

日本は6,852島からなる島国であり、領海およびEEZ（排他的経済水域）は世界6位規模の海洋国家です。本土5島と418島の有人離島には「海彦山彦」と呼ばれる幸があり、海の水が水蒸気となり雨として山へ降り注ぎ、川を下ってまた海に流れる「水のつながり」があります。また、かつては海流によって船が行き交ったことで、遠く離れた地域同士の「文化的つながり」もみられます。

島、山、川のある島国は、地域同士が「海や山や川によって隔てられている」とも捉えられるが、別の見方をすれば「海や山や川でつながっている」とも捉えられます。地域をつなぐ「海」「山」「川」、それらに関連する「文化」「歴史」「経済」を知ることにより、日本の姿を見つめ直すことができます。

2014年現在、日本の人口は減少の一途を辿っており、2060年には8000万人台まで減少するというデータもあります。この流れにのった都市一極集中の未来像では、日本各地の小規模地域は無人化してしまうものの、日本の価値は多種多様な地域の存在によって担保されるため、地域に人が暮らして行くことが必要と考えられます。

日本各地の個性豊かな「地域」「ふるさと」が未来に残っていくためには、まず地域を支える人材の育成やそのための教育機会が必要です。また、近未来に対応していくためには、最新技術の活用や他地域との連携経験を養う必要があります。そこで、「他者との連携」「他地域との連携」「ICTの利活用」「日本を広く捉える観点」「自らが暮らす地域への誇り」を醸成することを目的に、本プロジェクトを企画します。

うみやまかわ新聞

【タイトル】

うみやまかわ新聞

【コンセプト】

うみ・やま・かわのつながりを通して
自分の暮らす地域と他地域のつながりを知り
海洋国家の価値を学ぶ

【企画内容】

全国各地の地域の大人と子ども、教育機関、都市のクリエイターが連携し、日本をつなぐ「海」「山」「川」を知り、学べる新聞を制作。制作過程ではICT技術を活用し、遠隔地域の子どもたちやクリエイターとも連携を図る。

【企画を通して得られるもの】

- ◎ 「他者との連携」を図る経験
- ◎ 「他地域との連携」を図る経験
- ◎ 「ICTの利活用」の実践と知識習得
- ◎ 「日本を広く捉える観点」の習得
- ◎ 「自らが暮らす地域への誇り」の醸成

2014年度からスタートした『うみやまかわ新聞』（事業名称：日本財団海洋教育促進プロジェクト 海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作事業）。インターネット技術（ICT）の利活用により、離れた地域の子どもたちや、教育機関、都市部のクリエイターたちが連携して進める本プロジェクトも、間もなく2014年度の折り返し地点を迎えます。初年度となる今回、参加する地域は北海道利尻島・東京都檜原村・愛媛県上島町・大分県中津江村・沖縄県与那国島の全国5地域。小学校6年生～中学校2年生を中心に、5地域総勢27名の子どもたちがプロジェクトに取り組んでいます。



みんなで良い新聞をつくりましたよ！

【参加地域】

今年度の『うみやまかわ新聞』には、北海道利尻島・東京都檜原村・愛媛県上島町・大分県中津江村・沖縄県与那国島の全国5地域が参加しています。それぞれに地域ならではの「うみ・やま・かわ」に関わることがあり、自然、人、歴史や文化といった地域の魅力と密接に結びついています。

【参加者】

小学校6年生～中学校2年生をおもな対象に、各地域2名以上の子どもたちが参加（全地域総数：27名）。自分が暮らす地域の魅力を、たくさんの人たちに伝えられるように、積極的にプログラムに取り組んでいます。

【北海道利尻島】



北海道北部、日本海上に浮かぶ島。島の中心には利尻山がある。

【大分県中津江村】



周囲を山に囲まれた津江山系県立自然公園内に位置する。明治から昭和にかけて金鉱山として栄えた銅生金山がある。

【東京都檜原村】



東京都唯一の村。山々に囲まれ、林業が江戸時代から続き、水源地もある。

【愛媛県上島町】



瀬戸内海のほぼ真ん中に位置する上島町。弓削島・岩城島・生名島・魚島などからなり、弓削島には商船高等専門学校がある。

【沖縄県与那国島】



日本最西端の島。ヨナグニウマやヨナグニサンなど、固有の生物も多く、漁業が盛んでおもにカジキなどが水揚げされる。

【実施プログラムについて】

実施する学習プログラムについて

- ・9月～11月の期間で、現地にて計3回のプログラムを実施
- ・9月～11月の期間で、テレビ電話会議システムを活用した遠隔プログラムを、計4回実施

9月に実施した第1回プログラムでは、自分たちが暮らす地域の『個性』『特徴』をみんなで探し、地域への共感度を高める実習をおこないました。また、全国紙や地方紙、業界紙など、さまざまな新聞を見比べて違いや特色を話し合いながら、『メディア』について学ぶなど、これから始まる新聞づくりに向けて、座学と実習を織り交ぜながら楽しんで学べる時間を演出。

10月に実施した第2回プログラムでは、事前にテレビ電話会議と宿題でおこなっていた紙面のコーナー割り・取材先選定・質問内容まとめなどをもとに、取材インタビューをおこないました。

子どもたちは緊張しつつも、事前にまとめた質問内容をしっかりと伺い、無事に取材を終えました。

【学習ツールの一部】



【子どもたちの声】

毎回プログラム実施後に子どもたちへアンケートを配布。
各回の感想などを聞いて、毎回ブラッシュアップをしていけるように進めています。

【配布アンケートの一部】

配布アンケート

【9月の学習プログラムを終えた子どもたちの声】（アンケートより抜粋）

緊張することなくできたし、大人の人ともしっかり話せたのでよかった。（東京都檜原村・小学校6年生）

日本の海が思っていたよりも広がった事がとてもびっくりした。（東京都檜原村・小学校6年生）

『メディア』を日本語で『媒体』ということがわかり、勉強になりました。（愛媛県上島町・小学校6年生）

自分が暮らす地域の大きさなどが分かり、楽しかったです。（愛媛県上島町・小学校6年生）

利尻の人や自然などを考えたことが楽しかったです。（北海道利尻島・小学校6年生）

さまざまな所から会議ができることに、すごく驚きました。（北海道利尻島・小学校6年生）

ふせんに「自分の地域の特徴」を書いて、みんなで考えていく作業では、中津江は良い所がたくさんあるな～と感じました。
（大分県中津江村・小学校6年生）

【9月の学習プログラムに立ち会った大人の声】（アンケートより抜粋）

テレビ会議がこんなに簡単に臨場感をもってできることに驚いた。（大分県中津江村）

実際に地域を見つめ直すことができ、子どもたちにとっても再発見になったと思う。（東京都檜原村）